

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	でいじいおれんじ		
○保護者評価実施期間	令和6年10月21日	～	令和6年11月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和6年10月21日	～	令和6年11月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の状況に応じた活動プログラムや季節ごとのプログラムを実施している。	特に新一年生は事業所に慣れてもらうことを意識し、安心してもらえるよう最低限の支援からスタートしており、個々のできる事、やる気を大切に取り組んでいる。一人ひとりの興味関心、その日の状態に合わせ柔軟に活動できるよう取り組んでいる。また、季節ごとに羽根つきや竹鉄砲等昔ながらの遊びを取り入れている。	家庭や学校での様子をしっかりと共有し、職員全員がそれぞれの児童の特性や個性を理解して興味のある事を伸ばしていけるよう意識的に関わっていく。 また、達成感を感じてもらえるよう都度できたことを評価し声をかけていく。
2	地域イベントや屋外活動に積極的に参加している。	休日や長期休暇時には近隣の公園で屋外活動を行っている。地域のイベントや他事業所との合同イベントにも参加し、様々な場所・人と交流を持つ機会を得ている。	公共の場での約束事やルールを視覚的ツールを用いて示し、様々な場所でも穏やかに楽しめるよう工夫していく。 今後は近隣だけでなく区内で開催されるイベントにも足を運び、様々な体験ができるよう検討していきたい。
3	関係機関と積極的な連携をとっている。	事業所、学校、家庭と3か所での様子を共有したうえで児童発達支援センターに客観的な行動分析を依頼し、支援につなげている。 また、個別支援計画書は作成時に担当の相談支援事業所と共有している。	PDCAサイクルを意識し、児童に関わる全ての人が一貫した支援を共有することで児童の成長につながるよう働きかけていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流機会が少ない。	以前は保護者会や親子イベントを開催していたが、感染症流行に伴い休止状態が続いている。	今年度の長期休暇時に参観として夏祭りに複数名の保護者に参加してもらった。 今後感染症予防に留意しながら、参観の日程を増やし親子参加型のイベントも企画していく。
2	保護者への伝達が不十分である。	支援プログラムや個別支援計画書、その他マニュアル等書面やブログで発信していたが全保護者へのわかりやすい周知には至っていなかった。	引き続き書面とブログで発信していくが、送迎時の声掛けや内容についてのフォローなどを心がけていく。
3	支援の振り返り、情報共有が不足している部分がある	業務開始前にミーティングを行い、記録もとっているが当日の振り返りは送迎からの帰所時間がまちまちで行えていない。日誌や連絡ツールの活用を促しているが浸透していない。	送迎時に受けた保護者からの伝達事項は当日中に周知できている。当日の振り返りについても担当を決めて連絡ツール上に流す等工夫して行っていく。